



# 信愛館だより

Vol. 145

2024年5月号

発行/ケアハウス信愛館

近江八幡市北之庄町492-2

TEL/0748-32-2220

FAX/0748-33-7555

http://www.shinaikan.com

Mail/vories@za.ztv.ne.jp

みよ兄弟達が、ひとつになって共にすむことは、  
なんというしあわせ、なんという楽しさであろう

## 「私の思い出」

藤井 淑子

昨年の雑誌「看護教育」の特集に「人生 100 年時代の看護師の養成について」と書かれていた。これからの 100 年間、世の中は何が生じ何を必要とするのか想像することすら難しい。世の中の様々な影響を受けつつも、人が人の手当をする事には変わりはない。振り返ってみると、120 年間その時代、時代に最も必要な看護を提供できる看護師を育ててきた。看護教育制度の変化を受けつつ、自分たちの看護の向上のため日々、努力された先輩諸姉、関係者の方々の賜物である。

私は、昭和 39 年近江サナトリウム病院に入職しました。初めての夜勤見習いを先輩看護師の背中から教えて貰いました。その先輩看護師は、患者さんの傍で何も言わず静かに優しく足をマッサージされている姿でした。この先輩看護師の姿を見て、「目で見て手で護る」と言う看護学の基本が真にここにあると思いました。

程なくして私は東京へ専任教員の研修へ参りました。その後、大津赤十字高等看護学校専任教員となりました。支えくれたのは、看護学生達でした。教員として十分な実力も明確な根拠も持たず「看護とは何か?」「人々が求めているのはどのようなケアなのか?」と考えながら、若いエネルギーをぶつけ合った 40 年余年のことでした。

母からは、何をしても三日坊主と言われてきました。この三日坊主の私が 40 年もの間、看護職を続けられたのは、自分なりの生き甲斐観を持っていたからかも知れません。また私を支えてくれたのは、メレルヴォーリス先生のお言葉でもありました。

「必ず仕事には目的がある。それを頭において仕事をしなさい。」という教えです。先生からの、このお言葉は今もここに深く残っています。

これまでは医療職としての看護師でしたが、これからは介護を無視できない時代です。介護される側が、どのように生きていきたいのか?また、残された時をどのように過ごしたいのか?このことを一人ひとりが周囲の方々のお力をいただきながら、また自分自身の問題として、きちんと考えていきたいと思えます。

感謝



# キリスト教あいうえお (2巡目) — 「譬え」

近江金田教会牧師 横田明典

イエス・キリストは、聖書の中でよく「譬え話」をされます。例えば、「天の国はからし種に似ている。人がこれを取って畑に蒔けば、どんな種よりも小さいのに、成長するとどの野菜よりも大きくなり、空の鳥が来て枝に巣を作るほどの木になる。」(マタイ 13:31)と言われました。当時の人たちは自然を相手に農・漁業をしていたので、「天の国」という少し観念的なものを譬えを使ってわかりやすく人に話したのだと思います。

良く知られる「良きサマリア人 (ルカ 10:25~)」の話も、「放蕩息子 (ルカ 15:11~32)」の話も、「譬え」として語られたものです。

「譬え」は、確かにわかりやすくなるのですが、聞く人の価値観や文化等が異なると、思ったように伝わらないこともあります。それは現代人の私たちも同じことです。

聖書には書かれていませんが、イエス・キリストは、ただ「譬え」を話されるだけではなかったはずで、話を聞きに来た人と食事をしたりしながら、神の国のことや、愛の教えについても語り合っていたと思います。そうやって人との距離を縮めながら、福音を宣べ伝えていたのでしょう。

## ◆ ひな人形飾り付け ◆



## ケアハウス信愛館の日常

今年も入居者の皆様の  
おかげで楽しく飾り付けが  
出来ました



◆ 冬から春の信愛館

◆ (1月~4月)



3月の花壇より



1月の花壇より



4月の花壇より

ギター弾語り「皆で一緒に歌いましょう」(3月20日)



両日ともに20名程の方々にご参加されました。懐かしい音楽を聴かれ楽しまれていました。

3月から4月にかけて色とりどりのお花が咲き春らしい雰囲気。



リオンと仲間たちの歌謡ショー(4月24日)



### 鮎河千本桜 お花見ツアー(4月9日)



甲賀市土山町鮎河まで  
お花見に出かけました。  
「今まで見てきた桜の中で  
一番きれい」と仰られていました。



### 折々の行事食

1月19日誕生日会



2月16日誕生日会



3月15日誕生日会



待ちわびていた、春の訪れとともに信愛館だより5月号をお届けすることができました。  
目に鮮やかな新緑と色とりどりに咲きほこる花々に、ようやく再開できた喜びを皆様を感じとっていただければ幸いです。これからも、季節の行事や日々のできごとをお伝えできる紙面づくりに努めてまいります。  
(感謝)